

年齢階級別の外来受診率について

【分析の背景・目的】

第68回支部評議会において、評議員より0～18歳の受診状況に関する質問があった。また、「Webを活用した「医療費の節約につながる上手な医療機関のかかり方」の啓発広報」のより良い事業実施のため、福島支部における外来受診の状況について確認するもの。

【方 法】

協会けんぽ福島支部の平成22年10月～令和2年12月の加入者情報およびレセプトデータを用いて、年齢階級別の外来受診率（加入者1,000人あたり）の傾向を確認する。

外来受診率とした理由は、入院と比較して患者の受診意識がより強く影響するためである。

受診率とは・・・

患者1人につき1つの医療機関で毎月1枚作成される診療報酬明細書（レセプト）の枚数を基に、医療機関にかかる人の割合を求めたもの。

	医療需要側（患者）に関する要因	医療供給側（医療機関）に関する要因
受診率＝レセプトの枚数／加入者数	健康度 症状の程度 受診意識	医療機関数 医師数 病床数

【表1】 調査対象者の内訳（単位:人）

年齢階級	属性	加入者数 (R2.9月末時点)
0～9歳	乳幼児～児童	64,280
10～19歳	概ね学生	78,745
20～39歳	若手社員～主婦	179,874
40～59歳	特定健診対象	226,569
60歳以降	定年退職後	116,822
合計		666,290

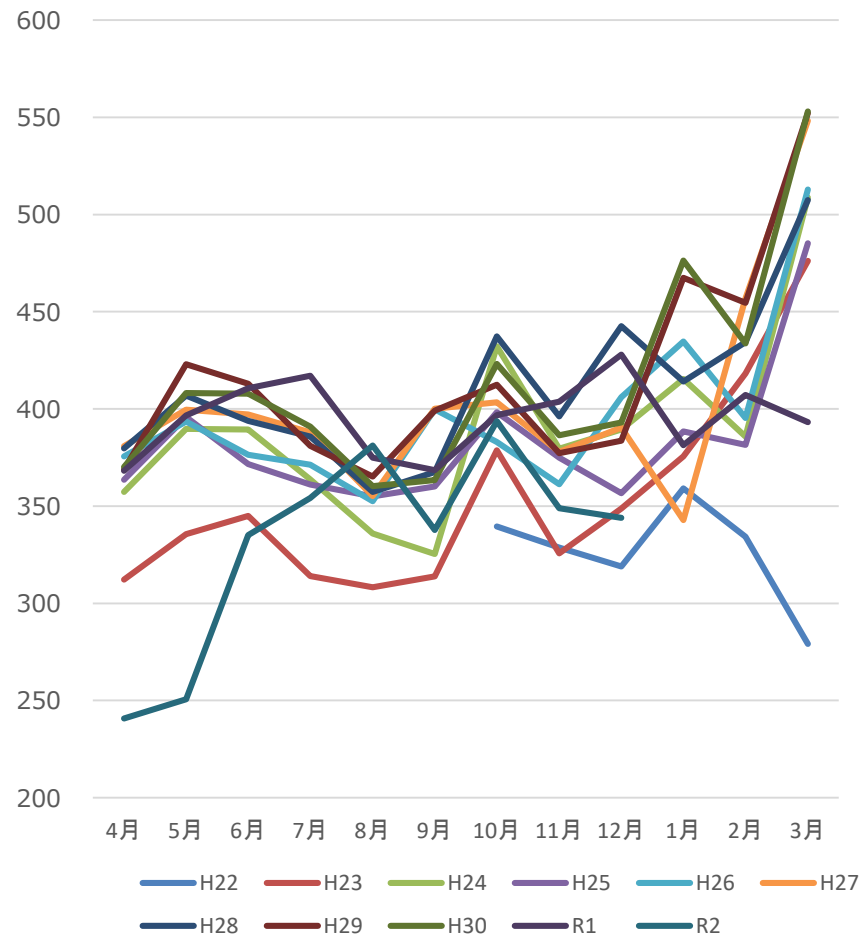
年齢階級別外来受診率（月別）①

0～9歳_外来受診率



月ごとのバラツキが大きく、医療機関の休みが比較的長い1月・8月に受診率が下がる傾向がみられる

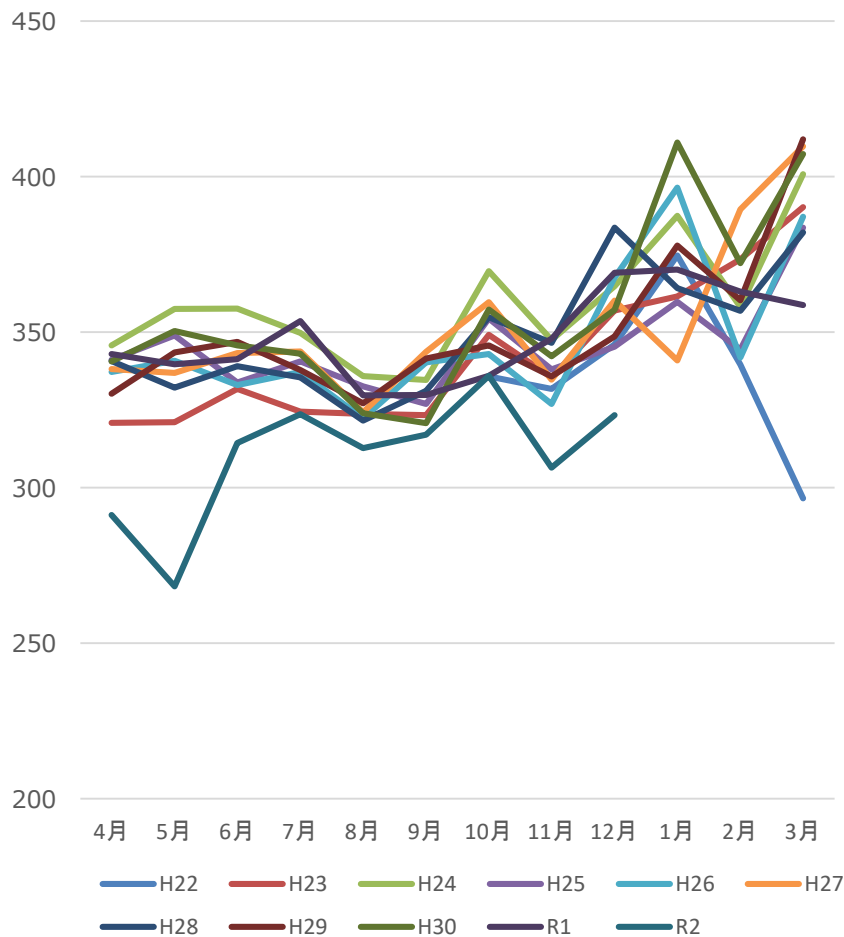
10～19歳_外来受診率



例年3月に受診率が上がる傾向がみられる。花粉症や進学準備等の影響が示唆される。

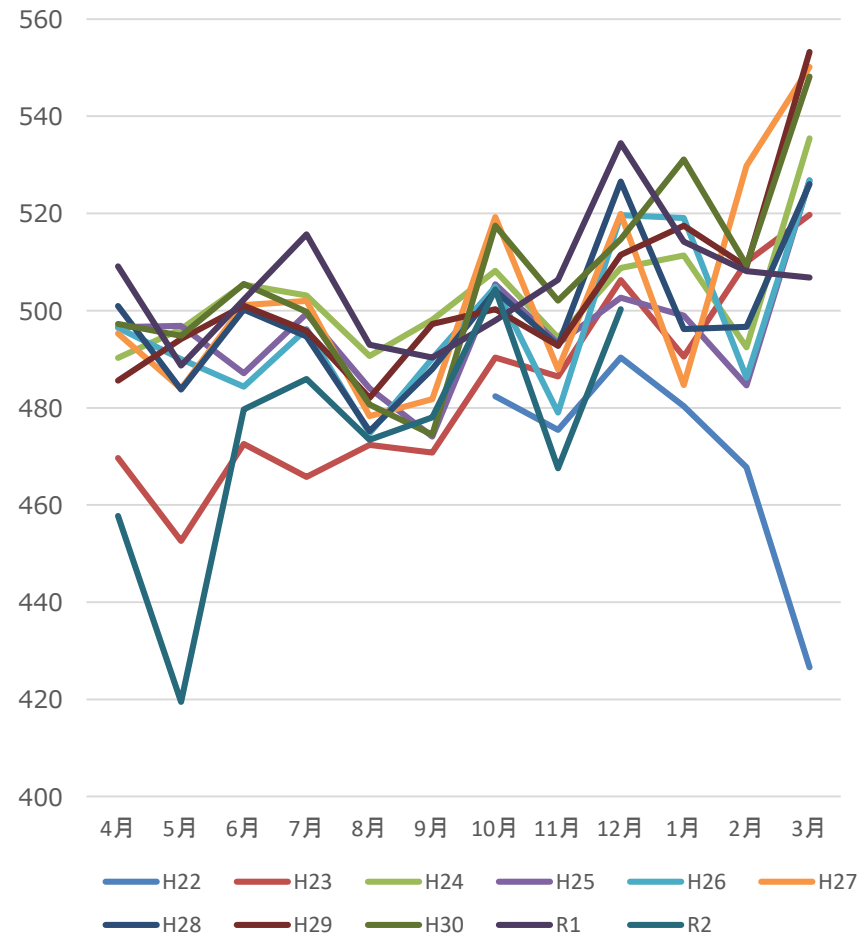
年齢階級別外来受診率（月別）②

20～39歳_外来受診率



インフルエンザのピークである1～2月、および花粉症の影響がでる3月に受診率が上がる傾向がみられる

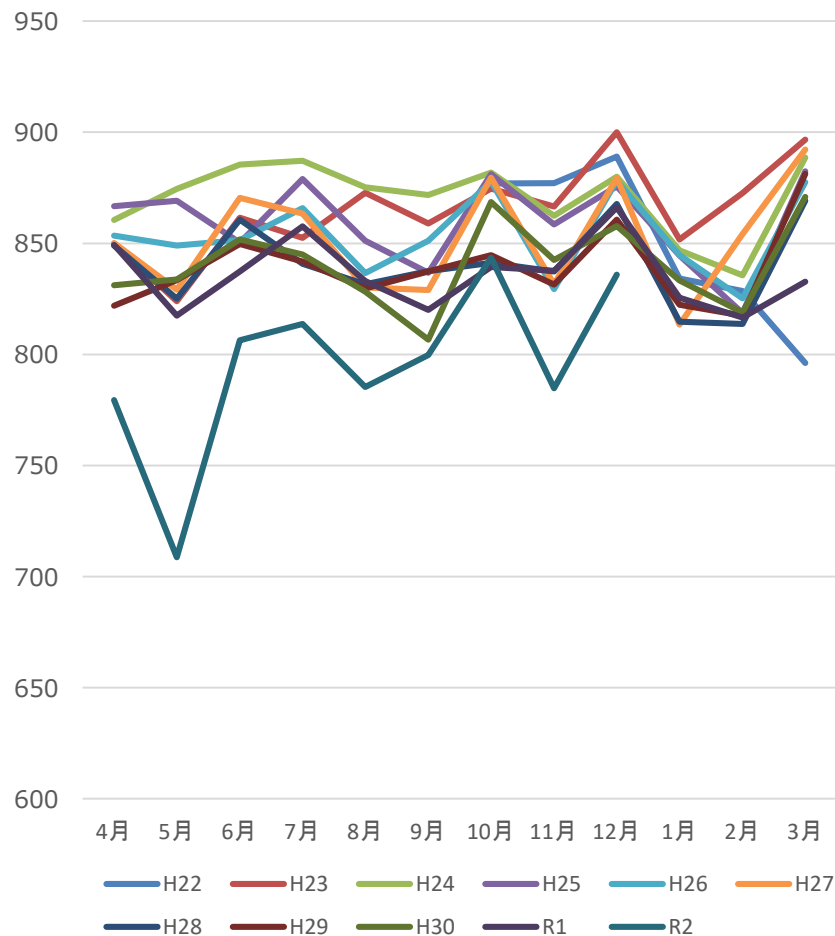
40～59歳_外来受診率



月ごとのバラツキは大きくないものの、花粉症の影響が出る3月に受診率が上がる傾向がみられる

年齢階級別外来受診率（月別）③

60歳～_外来受診率

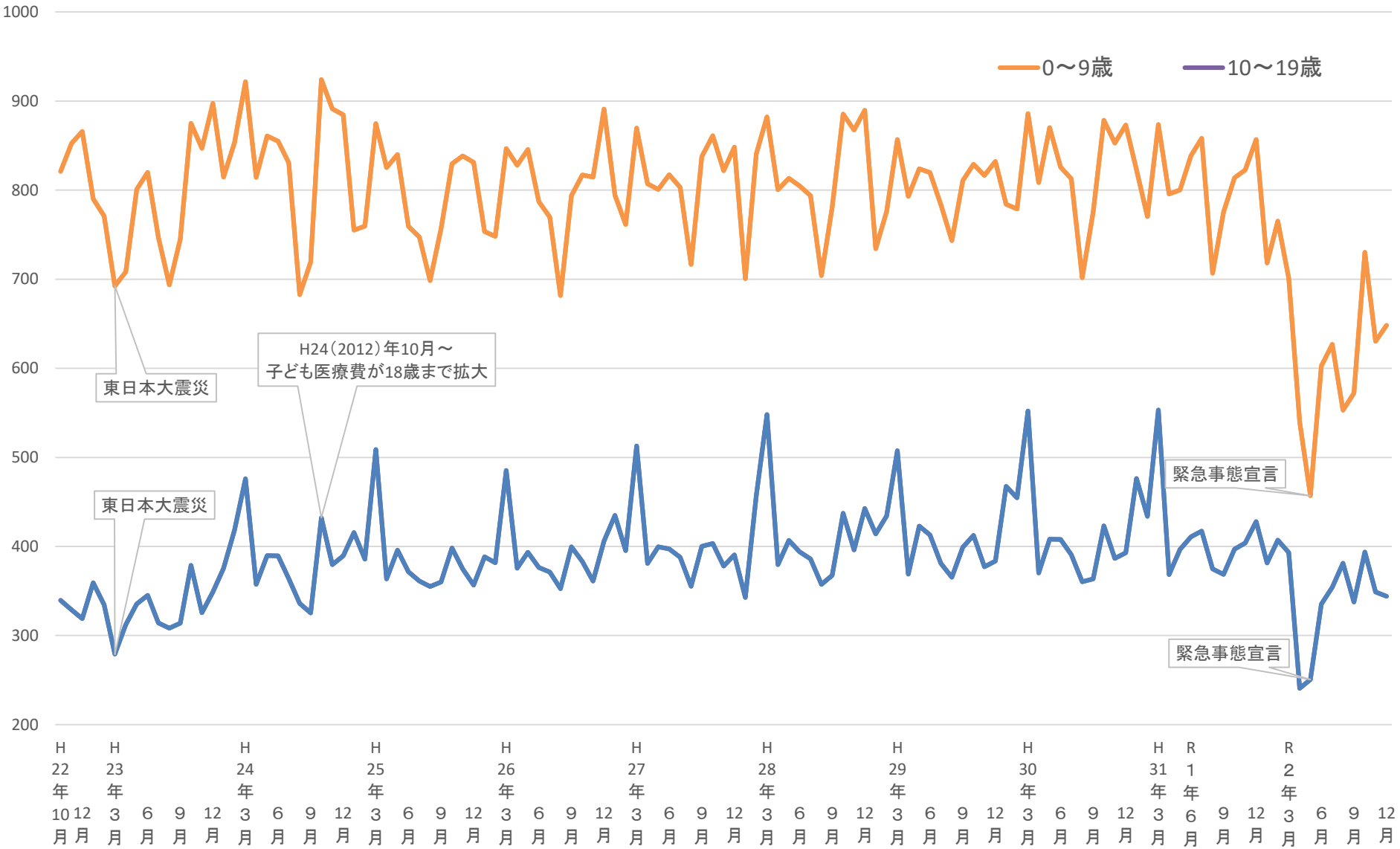


おおむね高い受診率で推移しているが、とりわけ12月・3月に受診率が上がる傾向がみられる

新型コロナウイルスの影響について

- 0～9歳、60歳以降の外来受診率がもともと大きな年代において、令和2年度の外来受診率が例年より低い数字で推移している
- 他の年代においては、4/16に緊急事態宣言が全国に拡大されたことから4月～5月の外来受診率が例年より低い結果となった

0～9歳と10～19歳の外来受診率の比較(推移)



参考①：0～9歳の外来受診率に関する寄与度分解

新型コロナウイルスの影響により、とりわけ0～9歳において受診率に大きな変化がみられた。

令和元年9月診療分と令和2年9月診療分の加入者1,000人あたり受診率を比較し、前年同月比に対する疾病別の寄与度（対前年同月比にどれくらい影響を与えているか）を調べた。

順位	疾病分類	R1.9 受診率	R2.9 受診率	寄与度	寄与率
1	1005 急性気管支炎及び急性細気管支炎	93.03	51.29	-5.4%	20.5%
2	1010 喘息	101.69	61.39	-5.2%	19.8%
3	1003 その他の急性上気道感染症	86.99	56.71	-3.9%	14.9%
4	1002 急性咽頭炎及び急性扁桃炎	55.17	30.01	-3.2%	12.4%
5	1006 アレルギー性鼻炎	50.86	41.33	-1.2%	4.7%
6	0803 中耳炎	20.35	11.09	-1.2%	4.6%
7	0101 腸管感染症	20.23	11.00	-1.2%	4.5%
8	1001 急性鼻咽頭炎[かぜ] <感冒>	26.38	18.19	-1.1%	4.0%
9	0104 皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス性疾患	22.60	16.63	-0.8%	2.9%
10	1007 慢性副鼻腔炎	11.82	7.05	-0.6%	2.3%
	・			・	・
	・			・	・
	・			・	・
	合計	775.40	572.01	-26.2%	100.0%

気管支炎や扁桃炎などの呼吸器系疾患が大きく寄与している。また、3位「急性上気道感染症」7位「腸管感染症」のような手指衛生により予防効果が期待できる疾病についても外来受診率の減少に大きく寄与していることが分かった。

参考②：10～19歳の震災前後の外来受診率の伸び

平成24年10月より、子ども医療費が18歳まで拡大された（それまでは自治体により対象年齢が異なる）。

このことに伴い、外来受診率に影響がみられたかどうか、月別の外来受診率の伸びを調べた。

診療年月	外来受診率					外来受診率の伸び			
	H22年度	H24年度	H26年度	H28年度	H30年度	H22-24	H24-26	H26-28	H28-30
10月	339.59	432.29	382.94	437.29	423.22	0.27	-0.11	0.14	-0.03
11月	328.74	379.62	361.23	396.16	386.38	0.15	-0.05	0.10	-0.02
12月	318.89	389.44	406.10	442.67	392.96	0.22	0.04	0.09	-0.11
1月	359.19	415.49	434.76	414.05	476.37	0.16	0.05	-0.05	0.15
2月	334.32	385.81	395.35	434.38	433.66	0.15	0.02	0.10	-0.00
3月	279.14*	508.70	512.94	507.50	553.06	0.82*	0.01	-0.01	0.09

*平成22年度3月（平成23年3月）診療分については東日本大震災の影響により、レセプト未提出の医療機関が多数あることから参考値

平成22年～24年度の伸びはいずれの月もプラスであることに対して、それ以外の年度の伸びでは月によってマイナスの月があるなどバラツキが見られた。子ども医療費の対象年齢拡大の影響が示唆される。

参考③ 10～19歳の疾病構成割合

10～19歳は例年3月に外来受診率が上がる傾向がみられる。

平成31年3月の疾病構成割合について、H30年度計の構成割合との比較を行った。

疾病分類（大分類）	H30年度	H31.3月 (再掲)	差
I：感染症及び寄生虫症	5.5%	3.7%	-1.8%
II：新生物<腫瘍>	0.7%	0.7%	0.0%
III：血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.6%	0.5%	-0.2%
IV：内分泌、栄養及び代謝疾患	1.4%	1.1%	-0.3%
V：精神及び行動の障害	5.4%	4.5%	-0.8%
VI：神経系の疾患	1.7%	1.4%	-0.3%
VII：眼及び付属器の疾患	13.0%	13.9%	0.9%
VIII：耳及び乳様突起の疾患	1.9%	1.4%	-0.5%
IX：循環器系の疾患	0.8%	0.5%	-0.2%
X：呼吸器系の疾患	35.5%	44.6%	9.1%
X I：消化器系の疾患	2.4%	1.8%	-0.6%
X II：皮膚及び皮下組織の疾患	13.5%	12.8%	-0.7%
X III：筋骨格系及び結合組織の疾患	4.4%	3.3%	-1.0%
X IV：腎尿路生殖器系の疾患	1.4%	1.3%	-0.1%
X V：妊娠、分娩及び産じょく	0.1%	0.0%	0.0%
X VI：周産期に発生した病態	0.1%	0.1%	0.0%
X VII：先天奇形、変形及び染色体異常	0.7%	0.6%	-0.1%
X VIII：症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	2.1%	1.3%	-0.8%
X IX：損傷、中毒及びその他の外因の影響	8.5%	6.0%	-2.5%
コードなし	0.4%	0.3%	-0.1%

平成31年3月は「X：呼吸器系の疾患」「VII：眼及び付属期の疾患」が年度計と比較して高く、「I：感染症及び寄生虫症」「X III：筋骨格系及び結合組織の疾患」「X IX：損傷、中毒及びその他の外因の影響」が低い結果となった。

【まとめ】

- 年齢階級別の外来受診率には年代ごとに異なる傾向が見られた。
- 0～9歳の外来受診率の変化には「呼吸器系疾患」が大きく寄与していることが分かった。
令和3年度事業「Webを活用した「医療費の節約につながる上手な医療機関のかかり方」の啓発広報（以下、「web広報事業」と言う。）」には発熱・せきなどを視点としたWebマンガやバナーも手段のひとつとして有効と思われる。
- 10～19歳の外来受診率は例年3月に高くなる傾向があり、平成30年度の疾病構成割合をみると「Ⅹ：呼吸器系の疾患（花粉症の影響が示唆される）」「Ⅶ：眼及び付属期の疾患（進学準備が示唆される）」が高くなる傾向がみられた。
web広報事業の実施においては、1～3月に10～19歳を想定した内容を実施することが効果的と思われる。